

愛しき浦和レッズ レッツを愛
する人達に捧ぐ

徒然正志

昨日、埼玉スタジアムで神戸戦を見に行きました。昨日は何か特別な一日を思わせるそんな予感をさせていました。電車で北越谷の駅に着いたら、そこはゲリラ雨で、20分くらい駅に足止め。でもバスに乗ろうと決めて豪雨の中スタジアムに向かってバスに乗っていたら、雨脚は弱くなり、スタジアムに着いたときはほとんど雨がやんでいて、一部明るい空も見えていた。

ゲームが始まる前には、すっかり雨はやみ、ただ湿度が異様に高く、ムシムシしている中でゲームは始まった。

当然サポーターというのは、試合前の練習を見ているとき、勝利しか考えてない。今日はどう勝つのか、それしかない。

いわゆる夢想するのです。今日の試合は絶対勝つと。

ここ何試合、DF陣がよく守り、勝利をものにしてきたが、この試合は前半、守備陣の乱れからやらずの2点を献上してしまった。前半を終わって0-2。でも私はレッズが勝つと信じて、ハーフタイム喫煙所でタバコを吸っていた。後半、交代で入った田中達也、マゾーラがゴールを決め同点になり、スタジアムのボルテージはあがっていき、私の声も絶叫に近くなった。もう1点取れば勝てる、1点を取りに行くけど、神戸もカウンター狙いでレッズも押し込まれピンチの連続。同点で、勝利を目指して両チームが戦う、奥さんに言わせればまるでジェットコースターに乗っているような感じで試合は終幕を迎えようとしていた。

我らがレッズサポーターは勝ち越し点を祈って声をあらんかぎり出していたが、ロスタイム、無常のPKの判定。なんという展開、ドラマか。レッズの勝利を信じ声を出していたが、審判のPKの判定。スタジアムは、WE ARE REDSの大合唱で、加藤のセーブを祈ったが、現実にはボールがコロコロとゴールネットをさわった。ア～、なんということか。負けた。

しかし、この負けは現実意であり、こんなゲームもあるのだろうと思う。勝負事だから、勝ち負けはある。PKをうらむこともできる。しかし、前半の2点がなければとも思う。でも結果が全てであり、負けは負けである。こういう試合もある。ただ、後半から、勝利を目指した、レッズの選手に賛辞を与えたい。試合終了後、PKの判定に不服の柏木の行動。審判に詰め寄り、試合後握手もしなかった、柏木がPKの判定の真偽を彼だけが知っていたかもしれない。

ゲームには負けた。それは現実だ。しかし、勝利を信じた3万人のサポーターがいたのも現実だし、勝利を信じれるゲームをしたのも現実である。サッカーは何が起きるか想像できない。だから面白い。私はどんな現実が待っていようと、レッズが、PRIDE OF URAWAのスピリットで試合をやっているとき、ずっと、彼らを愛します。我がホームタウンのクラブ、URAWA REDS BOYSよ。

Jリーグ 柏レソル

好調を維持しているレッズ。前節は鳥栖相手に6点の大量得点。それも6点が全員違う。どこからでも得点できる、魅力あるチームに深進化し続けている、今日の柏戦も大いに期待できる。

これから、国立競技場に繰り出し、レッズと一緒に戦ってきます。後程、スタジアムの空気も含めてレポートします。

とにかく、今から楽しみだ。今日も勝って大宮にくっついていき、優勝あるのみだ。